

様式第2号（政務活動実施報告書）

平成30年2月22日

井原市議会議長

西田 久志 様

井原市議会議員

簗戸 利昭

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

1. 実施期間	平成30年2月7日（水）～8日（木）
2. 研修会等の開催地 または視察、要請・ 陳情活動先	宇佐市 直方市
3. 研修会等の名称 または視察、要請・ 陳情活動内容	大分県宇佐市 ・議員発議による条例の制定について 福岡県直方市 ・リサイクル事業の推進について
4. 研修会等の講師名 または視察、要請・ 陳情活動先の担当者 名	宇佐市 大隈副議長、尾方主幹（総括）議事係担当、佐藤事務局員 直方市 篠崎課長、永芳係長
5. 活動内容	別紙の通り

1. 報告書は、政務活動終了後2週間以内に提出すること。

2. 活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により活動内容を取りまとめ、活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

平成30年2月7日（水）

大分県宇佐市 人口56,258人・面積439.12km²（平成29年4月1日現在）議員定数24人

・議員発議による条例の制定について

地産地消の推進条例

①議長と市長の間でいくらかの話はあった。

「千年ロマンに想いをはせ、海の幸、山の幸、自然豊かな宇佐のチカラの恵みを未来へと紡ぎ広める条例」の提案までの経過

1：産業建設委員会（常任委員会）で研修

（1）兵庫県西宮市（平成27年10月19日～21日）

①西宮市清酒の普及の促進に関する条例の研修

（2）静岡県藤沢市

②藤沢市地産地消の推進に関する条例

2：1・2期議員による素案作り

（1）6月定例会での議長要請

①6月28日・代表議員を決めて、地産地消を主とした政策条例の草案を依頼

（2）勉強会

①7月14日・代表議員の草案に向けての研修（総務課行政係）

②8月5日・前文案、静岡県藤沢市の事例の研究

③8月30日・前文案（川谷提案）の検討

④10月12日・名称案（川谷提案）の検討

・「自然豊かな宇佐のチカラの恵みをいただきながら千年ロマンへと想いをはせる条例」

⑤10月21日・名称案（川谷提案）、条文案の検討

・「海の幸、山の幸、自然豊かな宇佐のチカラの恵みをいただきながら千年ロマンへと想いをはせる条例」

・後日、法制担当課の確認と地産地消担当課の確認と訂正、修文の可能性のあることを確認する。

3：執行部法制担当（総務課行政係）の確認（12月6日まで）

・「千年ロマンに想いをはせ、海の幸、山の幸、自然豊かな宇佐のチカラの恵みを未来へと紡ぎ広める条例」に名称、条文の変更

・1・2期議員に変更後の条例案を配布する。

4：執行部地産地消担当（経済部長、農政課長）の確認、常任委員会での協議

(12月14日)

- ・一部の修正・追加（前文の字句修正、生産者の役割の条文追加、事業者の役割の字句修正）
- ・推進推奨条例であり罰則規定もないとの理由でパブリックコメントを取らず、早期制定を期して12月21日付けで議長に委員会提出議案として条例制定案を提出することに決定

5：主要会議の経過

- (1) 議会運営委員会（議会からの政策条例提案の説明 {5月27日、11月18日})
- (2) 全員協議会（議会からの政策条例提案の説明 {11月29日})
- (3) 議会運営委員会（平成28年12月21日）
- (4) 全議員周知（平成28年12月21日）
- (5) 本会議（平成28年12月21日）

以上のように、1・2期議員が中心に制定された。先輩議員の理解も得られ、執行部も協力してできたと思われる。

議会事務局の方も、協力的であったと思われる。

平成30年2月8日（木）

福岡県直方市 人口 57,082人 面積 61、76 km²（平成30年1月末現在）

リサイクル事業の推進について

「一般廃棄物処理実施計画に基づいて行っている。」

ごみ収集運搬は職員による直接収集から、平成18年10月に収集地区の一部民間委託、平成24年4月から直方市内全域の民間委託。

平成28年度は市民、事業所の直接搬入も含め約17,195トンのゴミ回収市内には約4,000か所のごみステーションがある。ステーション方式による回収で、可燃ごみ週2回、不燃ごみ、びん、かんは、月1回の収集を実施。

直方市で発生するごみの減量を行う目的で、平成12年4月に市内全域を対象に（空き瓶、空き缶、ペットボトル）資源リサイクル回収を開始。

平成18年8月には、環境業務課施設内に資源回収場所を設置し、追加品目として新聞・雑誌・雑古紙・段ボール・蛍光管・廃食用油・乾電池等の他、平成

23年には、小型電子機器の回収、平成26年10月からは古着のリサイクル、平成28年10月からは水銀（温度計・体温計・血圧計）を加え、平成28年度には、約707トンの資源を集めている。

また、自治会・公民館などによる集団回収（廃品回収）では約739トンの回収をいただいている。

直方市の問題

自治会加入率が低くなっている。60%を下回っている。

資源拠点回収の仕組みづくり

平成12年〔容器包装リサイクル法〕に基づき平成12年度から資源リサイクル回収、平成18年度より資源拠点回収を行っている。

市内を14地区に分け、おおむね25世帯に1か所に登録制で月に1回収集回収品目は「カン」「ペットボトル」「ビン（無色・茶色・その他）」「容器包装プラスチック（その他プラ）」「台所用小金属」の5品目

*専用の容器を回収日前日の午後登録地域に配布している。

北九州市に巨大なリサイクル施設を持っているためか、多品目の回収が出来る。

今後、西部衛生組合の最終処分場が出来る地域の方は、安心安全を求めておられる。ごみの減量化のためにも、多品目回収が必要と思われる。

西部衛生組合でも、多品目回収による、ごみの減量化が求められる。